

科目区分	専門教育科目	授業科目名	ゼミナール			科目コード	24S802	担当者	太田 美代、古賀 克彦、桑原 真美、太田 智子			担当形態	クラス分け
対象学科・コース	生活創造学科 栄養士コース	配当年次	2年次	開講学期	通年	単位数	4	必修・選択の別	必修	免許・資格要件			
授業形態	演習	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	
実務の経験を有する教員担当科目		実務の経験内容及び科目との関連										科目に含めることが必要な事項	

授業の主題	研究活動を通し栄養士として基礎的な能力と実践力を養うことを目的とする。卓袱料理試食会により食文化の継承と協働の必要性について学ぶ。また、チャレンジタイムと称した栄養士実力認定試験受験対策を実施する。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	個別に助言・指導を行う。
授業の方法	各ゼミナールごとにグループワークを中心とした研究活動を行い、その成果を学外へ発信する。受講生全員で卓袱料理試食会の開催・事前準備を実施する。チャレンジタイムは習熟度別のグループで実施する。	アクティブ・ラーニングの実施方法	ゼミナール毎にグループワークを実施する。

回数	授業計画	事前・事後学修
第1回	チャレンジタイム(栄養士実力認定試験模擬試験) ゼミナール全体のオリエンテーション(年間予定説明) 【食文化継承活動】卓袱料理試食会(第1回全体会 試食会の概要説明)	栄養士実力認定試験の過去問題を解いておく。 卒業研究の概要を理解する。
第2回	チャレンジタイム(解剖生理学)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。ゼミナールの研究テーマを考える。
第3回	チャレンジタイム(生化学)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第4回	チャレンジタイム(食品学総論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第5回	チャレンジタイム(食品学各論) 卓袱料理試食会 第2回全体会(レシピ、役割分担、当日の進行確認他)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第6回	チャレンジタイム(食品衛生学)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第7回	卓袱料理試食会 試作(料理の試作・評価・検討の実施) 【食文化継承活動】卓袱料理試食会 第3回全体会(試作の検討)	レシピを確認し、工程をシミュレーションする。
第8回	チャレンジタイム(栄養学総論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。

回数	授業計画	事前・事後学修
第9回	チャレンジタイム(栄養学各論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第10回	【食文化継承活動】卓袱料理試食会(試食会の事前準備) 【食文化継承活動】卓袱料理試食会(リハーサル)	卓袱料理試食会の一日の流れと自分の役割を確認する。
第11回	【食文化継承活動】卓袱料理試食会(本番①)	レシピを確認し、工程をシミュレーションする。
第12回	【食文化継承活動】卓袱料理試食会(本番②)	レシピを確認し、工程をシミュレーションする。
第13回	チャレンジタイム(栄養指導論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第14回	チャレンジタイム(調理学)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第15回	チャレンジタイム(給食管理論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。前期の活動を振り返り課題と今後の目標を明らかにする。

回数	授業計画	事前・事後学修
第16回	チャレンジタイム(栄養士実力認定試験模擬試験)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	栄養士実力認定試験の過去問題を解いておく。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第17回	チャレンジタイム(公衆衛生学、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施)	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第18回	チャレンジタイム(臨床栄養学概論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第19回	チャレンジタイム(公衆栄養学概論)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第20回	チャレンジタイム(混合問題)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第21回	チャレンジタイム(混合問題)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第22回	チャレンジタイム(混合問題)、各ゼミナールにてテーマに沿った研究活動の実施	チャレンジタイムで出題された問題をもう一度解く。各ゼミナールの研究活動にて必要な課題を実施。
第23回	ゼミナール報告集作成(各ゼミナール毎に活動)	ゼミナール活動報告集を作成する。

回数	授業計画	事前・事後学修		
第24回	ゼミナール報告集作成(各ゼミナール毎に活動)	ゼミナール活動報告集を作成する。		
第25回	ゼミナール報告集作成(各ゼミナール毎に活動)	ゼミナール活動報告集を作成する。		
第26回	ゼミナール報告集作成(各ゼミナール毎に活動)	ゼミナール活動報告集を作成する。		
第27回	ゼミナール報告会準備(各ゼミナール毎に原稿・スライド作成、及び練習)	プレゼンテーションの練習を行い、スキル向上に努める。		
第28回	ゼミナール報告会準備(各ゼミナール毎に原稿・スライド作成、及び練習)	プレゼンテーションの練習を行い、スキル向上に努める。		
第29回	ゼミナール報告会(全体リハーサル) ゼミナール報告会準備(各研究室毎に原稿・スライド作成、及び練習)	プレゼンテーションの練習を行い、スキル向上に努める。		
第30回	ゼミナール報告会	1年間の活動を振り返り、今後の目標を明確にする。		
		<table border="1"> <tr> <td>事前・事後学修時間 (分/授業1回)</td> <td>180分/授業1回</td> </tr> </table>	事前・事後学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回
事前・事後学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回			

教科書 [書名/著者名/出版社]	教科書は使用しない。各ゼミナールの研究活動およびチャレンジタイムに必要な書籍等はその都度準備すること。必要な資料等はその都度配布する。	受講生へのメッセージ	学生が担当教員と連絡、相談を繰り返しながら主体的に取り組むと完成につながります。メンバー同士の絆も大切にしてほしいと思います。
参考書 [書名/著者名/出版社]	なし		

評価基準																	
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点比率 (%)	評価方法の配点比率 (%)					学修成果の小分類			尺度					
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法／評価指標	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
													(S : 100~90%)	(A : 89~80%)	(B : 79~70%)	(C : 69~60%)	(F : 59%以下)
観点	尽心	① 学習意欲	20			10		10	研究・学習目標へ向けて継続的に取り組むことができる。向学心を持って研究・学習に取り組むことができる。	勤勉性、真面目さ、継続性	実験および実習中の態度 チャレンジタイム取組状況 (課題提出)	目標へ向けて継続的に取り組むことができる。向学心をもって研究・学習に取り組むことができる。	目標へ向けて継続的に取り組むことができる。ある程度向学心を持ち研究・学習に取り組むことができる。	目標へ向けてある程度継続的に取り組むことができる。	目標へ向けて継続的ではないが取り組むことができる。	目標へ向けて取り組むことができない。	
		② 規律性															
	知識・技能	③ 知識															
		④ 技能															
	思考・判断	⑤ 情報活用能力	10					10	研究で得られたデータを集計・説明するとともに、研究目的に沿って結論付けることができる。	情報処理	ゼミナール報告集	実験で得られたデータをわかりやすく集計・説明するとともに、実験目的に沿って結論付けることができる。	実験で得られたデータを集計・説明することができる。	実験で得られたデータを報告集にまとめることができる。	実験で得られたデータを報告集に表現することができる。	実験で得られたデータの活用が不十分である。	
		⑥ 課題解決力	10					10	研究を行う上で解決すべき問題点を十分に理解しその解決方法を提案できる。	問題発見力 問題解決力	ゼミナール報告集 授業内での発表・発言	研究を行う上で解決すべき問題点を十分に理解し、その解決方法を提案できる。	研究を行う上で解決すべき問題点を理解しその解決方法を提案できる。	研究を行う上で解決すべき問題点を理解し、説明できる。	研究を行う上で解決すべき問題点をある程度理解し、説明できる。	研究を行う上で解決すべき問題点の理解が不十分である。	
	表現	⑦ 言語活用能力	10					10	研究の目的・方法・結果について正しく説明し、目的に沿って考察をした報告書を作成できる。	書く力	ゼミナール報告集	研究の目的・方法・結果について正しく説明し、目的に沿って考察をした報告書を作成できる。	研究の目的・方法・結果について正しく説明し、考察した報告書を作成できる。	研究の目的・方法・結果についてある程度説明、考察をした報告書を作成できる。	他人が研究内容を把握可能であるレベルの報告書の作成ができる。	報告集作成の形式およびその内容が不十分である。	
		⑧ コミュニケーション力	15					15	実施した研究について、相手に伝えるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	意思伝達力、論理的表現力、プレゼンテーション力	ゼミナール報告会時のプレゼンテーション	実施した研究の内容について、相手に伝えるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容について、ある程度相手に伝えるわかりやすいプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容について、ある程度相手に伝えるプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容についてプレゼンテーションをすることができる。	実施した研究の内容についてプレゼンテーションをすることができない。	
	実践	⑨ 主体性	20					10	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで責任を持ち結果を向上させるための努力ができる。	積極性、責任感	実験および実習態度、 チャレンジタイム取組状況 (課題提出)	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで責任を持ち結果を向上させるための努力ができる。	目的を持って積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで結果を向上させるための努力ができる。	目的を持ってある程度積極的に研究・学習を遂行できる。最後まで結果を向上させるための努力ができる。	目的を持ってある程度積極的に研究・学習を遂行できる。	目的を持って積極的に研究・学習を遂行することができない。	
		⑩ 協働性	15					15	周囲と協力して研究を遂行することができる。細かいところまで意思疎通を図りながら研究を遂行できる。	チームワーク	実験および実習中の態度、 発言	周囲と協力して研究を遂行することができる。細かいところまで意思疎通を図りながら研究を遂行できる。	周囲と協力して研究を遂行することができる。ある程度意思疎通を図りながら研究を遂行できる。	周囲と協力して研究を遂行することができる。	ある程度周囲と協力して研究を遂行することができる。	周囲と協力して研究を遂行することができない。周囲と意思疎通を図れない。	
合計			100				20	45	35								